

難聴特別支援学級等担当者学習会を行いました

みみの助



きこえとことばの支援センターでは、毎年5月と8月に県内の聴覚障がい児に関わる方を対象に、難聴特別支援学級等担当者学習会を開催しています。2回行った学習会は、難聴児を担当されている先生が日頃の指導の悩みを共有し、皆で解決していく方向を探る場となりました。

第1回は5月21日（水）に行いました。内容は、岐阜聾学校の見学、当校職員による聴覚障がいについての講話、参加者の交流会です。学校の見学では幼稚部から高等部までの授業や活動の様子を見ていただきました。参加者からの感想です。

校内見学について

- ・手話を通しての授業は、個に応じて丁寧に話をされていたことが印象的でした。難聴の子に配慮された授業や廊下の掲示物があり、わかりやすくなっていると感じました。
- ・学校での様子を見せていただき、とても丁寧な支援を行っていることがよくわかりました。子どもたちの表情がとても生き生きしているのが印象的でした。
- ・文字で分かりやすく伝えたり、床にカーペットを敷いたりするなど、環境の配慮がたくさんされており、環境配慮が大切だと感じました。お子さんたちが楽しそうな表情をしていたので、「わかる」ことが「うれしい」につながっているのだろうと感じました。

講話について

講話①「聴覚障害について」

講師：吉田 晃樹（当校教諭）

- ・きこえにくさについてその仕組みから配慮までわかりやすいプレゼンを使って話をさせていただきました。
- ・どのようにきこえ、どんな困り感があり、どう対応していくとよいか教えていただき参考になりました。
- ・今まで、きこえについて学ぶことがなかったため、とてもわかりやすく、担当する子に還元できる内容が多くありとても良かったです。
- ・イヤーマフ、補聴器を実際に使用して、難聴のお子さんのきこえについて体験させてもらい、聞こうとするためにエネルギーをいっぱい使っているんだなど実感しました。環境の配慮や身振り手振りなどわかるように伝える手段が大切だと思いました。



交流について

- ・悩みを聞いていただだけ、アドバイスがもらえるところがいいです。
- ・他校の先生方のお話が聞けたり、検査キットや書籍をご紹介いただけてよかったです。資料もありがたいです。
- ・現状のありのままそれぞれの悩みを聞くことができ、またそれぞれの学校地域においていろいろなパターンがあることを知りました。やはり地域の学校の中でも少し特別な世界なので交流会が貴重です。
- ・センターに来ているお子さんの様子を聞かせてもらいありがとうございました。『「イヤ」「やらない」が使えるって大切、それを教えることも大事』という、貴重なお話ありがとうございました。



第2回は8月21日(木)に行いました。内容は愛知県立岡崎聾学校の村松弘子先生から通級指導の実際について講話をいただき、その後、交流会を行いました。参加者からは次のような感想がありました。

講話について

- ・きこえの仕組みや分かりやすい配慮、具体例を交えた指導の様子等を通して難聴児への支援方法や通級のあり方を学ぶことができました。これからも障がいの種類に関わらず、まずは「相手の世界を知る」という基本姿勢を忘れず、周囲も巻き込みながらみんなで支援していくことを心掛けたいと改めて感じました。
- ・難聴児とのやりとりの際に配慮することを復習できて良かったです。また、新しい学びも沢山ありました。紹介して下さった教材を使ってみたいと思いました。
- ・大変貴重な学びの場をいただき、ありがとうございました。村松先生に個別に相談の時間をいただき、大変ありがたかったです。



交流会について

- ・交流会で相談機関や子どもや保護者への具体的ななかかわり方を教えていただき、大変参考になりました。ありがとうございました。自分が日頃困っていることや、分からないことを教えていただくことができ、とてもありがたかったです。
- ・今回のような、今の悩みをきいてくださる学習会、そして、講演は、本当にいつも勉強になり、有り難い機会です。ありがとうございました。県内の難聴学級の先生同士が集まる研修の機会は少なく、大変貴重な機会です。
- ・他の園や施設などとの意見交流の時間は有意義でした。今後も時間を作ってもらえるとよいです。

